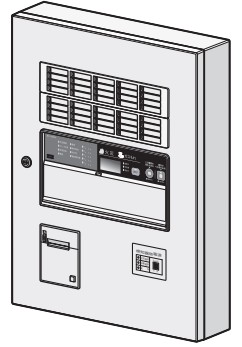


はじめに

- 受信機を正しく施工していただくために、設置工事を実施する前に、この施工説明書をよくお読みください。施工後は、この施工説明書を大切に保管してください。
- この施工説明書は、標準仕様の受信機の施工方法について記述しています。特殊仕様の受信機については別途、外観図・回路図・仕様書などがありますので、それらの内容をご確認の上、施工してください。なお、受信機の詳細については、『P型1級（自動試験機能付）火災受信機／複合火災受信機FAPJ/FCSJ106Sシリーズ、GP型1級（自動試験機能付）ガスもれ火災受信機／ガスもれ複合火災受信機FAPGJ/FCSGJ106Sシリーズ取扱説明書』（TN52073）（以降、『取扱説明書』（TN52073）と表記）を参照してください。
- 出荷状態のままAC電源を入ると、起動後すぐに「予備電源異常」と異常状態が表示されます。



火災受信機の設置場所

故障や誤作動を防ぐために、以下の場所へ設置してください。

- 直射日光の当たらないところ、暖房やボイラーなどからの熱風が直接あたらないところ。
- 水滴、蒸気、ほこり、腐食性ガスなどがかからないところ。
- 強力な電磁波を発する機器が周囲にないところ。
- 振動の少ないところ。
- 周囲に操作上支障となる障害物のないところ。
- 常に人がいて、様子を確認められるところ。
- 周囲の温度が0～40℃、湿度が20～85%RH（結露なきこと）のところ。
- 水平に取り付けられるところ。

キャビネットの取り付け方法（壁掛型の場合）



注意

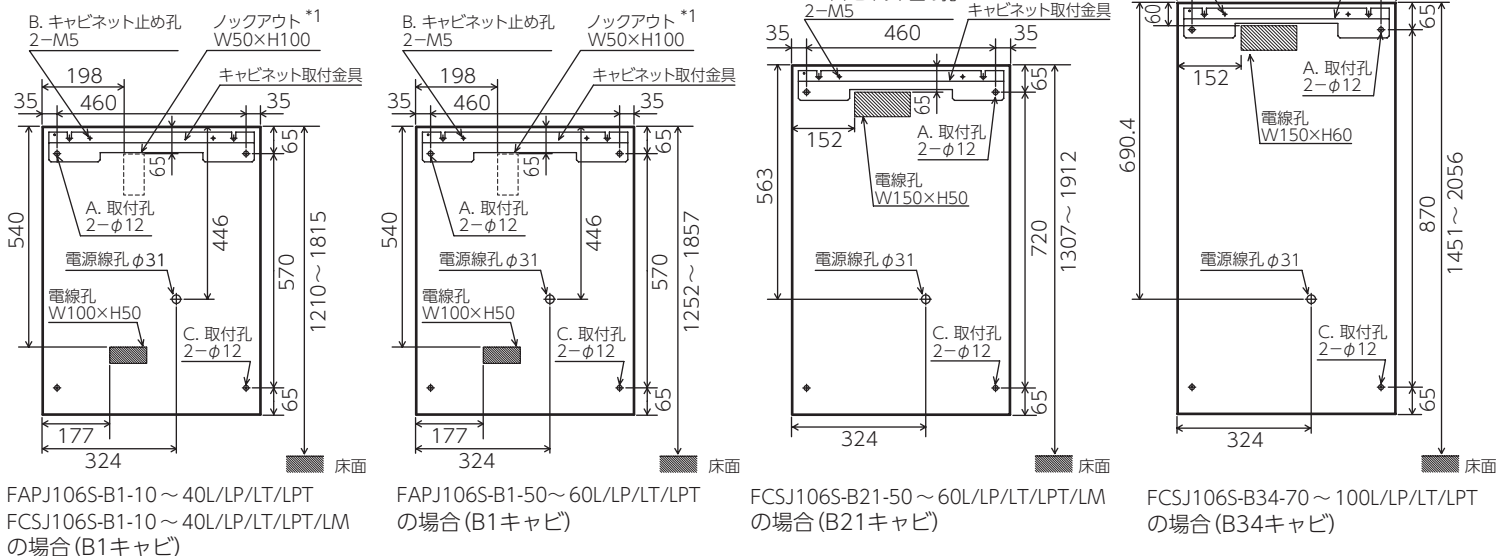
- 受信機はその重量に十分耐えるように、強固に取り付けてください。強固に取り付けなかった場合、脱落などを引き起こし、けがの原因になります。
- キャビネットに直接穴をあける場合は、切りくずが回路部に入り込まないように、十分注意してください。ショートや故障の原因となります。

- ① キャビネット取付金具をアンカーボルト（M8）または同等品で壁面に取り付けてください（A. 取付孔2か所）。壁面の強度が弱い場合には、補強材で補強した上で取り付けてください。床面からの取り付け高さは、下図に示す範囲内にしてください。
- ② 取付金具にキャビネットを引っ掛けて、付属のビスで取付金具とキャビネットを固定してください（B. キャビネット止め孔2か所）。
- ③ ①と同様にキャビネットを壁面に取り付けてください（C. 取付孔2か所）。

※自立型、GP型については別途お問い合わせください。

■ 取付寸法図（扉開状態） 正面図

*1：B1キャビ配線ダクト裏ノックアウトは、リニューアル時などで使用可能です。



(単位:mm)

安全上のご注意

安全にご使用いただくために、以下の注意事項を正しくご理解のうえ、ご使用ください。

警告

- 予備電源の接続は、+、-を絶対に間違わないように接続してください。予備電源を発熱・破裂させる原因になります。
- 「伝送異常スレープ」(SLU/SLUM/ROU/SOU)が発生する場合、基板アドレスが重複していないか確認してください。基板アドレスが重複していると、予期しない動作が出力される場合があります。また、データベース設定後に「伝送異常スレープ」が発生する場合、連動先または連動要因の設定に誤りがある可能性があります。

注意

- 電源(AC100V)接続時は、感電防止のため、電源ブレーカを遮断してから作業を行ってください。

注意

- 濡れた手で受信機の内部に触れないでください。感電のおそれがあります。

注意

- 電源はAC100V専用です(入力電圧範囲:90V~110V)。接続前に入力電圧を確認してください。AC100V以外の電源は、絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
- 予備電源を取り付けるときなど、電極をショートさせないように注意してください。火傷のおそれがあります。
- ヒューズは、必ず決められた容量のものを使用してください。それ以外のもので使用した場合、故障・発火の原因となります。
- 白熱ランプ式の表示機には接続できません。発光ダイオード式の表示機(FIP116/117シリーズ、FIPJ101/103/104シリーズ)を使用してください。故障の原因となります。ただし、部屋番号は表示できません。

注意

- 各端子への外線接続は、所定の定格容量・極性に従って正しく行ってください。誤った場合、故障や発火の原因となります。

注意

- アースを確実に接続してください。接続しないと、漏電時に感電するおそれがあります。

データベース設定について

受信機を正しく運用するには、物件の仕様に応じたデータベースの設定が必要です。設定方法および確認方法は、別冊の『P型1級火災受信機/複合火災受信機FAPJ/FCSJ106N/Sシリーズ、GP型1級ガスもれ火災受信機/ガスもれ複合火災受信機FAPGJ/FCSGJ106N/Sシリーズ、連動操作盤SAPJ006シリーズ、G型ガスもれ受信機AAPJ006シリーズ データベース設定説明書』(TN52079)(以降、『データベース設定説明書』と表記)を参照してください。

電源投入時の確認事項について

受信機の電源投入時には、火災試験などを実施して設備図どおりにP-AT感知器が接続されていることを必ず確認してください。また、『取扱説明書』(TN52073)を参照し、P-AT感知器の数を確認してください。P-AT感知器が接続されていなかったり、故障している場合、受信機では異常を検出できませんのでご注意ください。

注意

受信機の日時設定を必ず行ってください。日時設定を行わないと、「日時未設定」異常が表示されます。設定方法については、『取扱説明書』(TN52073)を参照してください。

保護シートのはがし方

表示・操作部のメンブレンシートの上には保護シート(無色の薄いシート)が貼り付けられています。施工完了時には保護シートをはがしてください。



差し込み端子の取り扱い方法

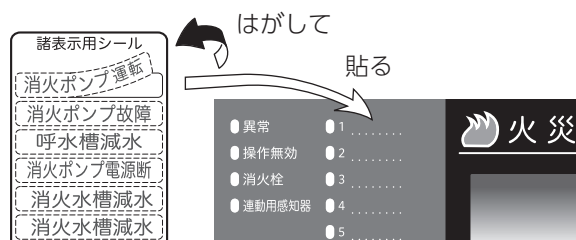
適合電線範囲はφ0.8~1.2mmの単線です。これ以外の単線およびより線の電線は使用できません。また、一つの挿入孔に対し、接続できる電線は1本です。電線が2本以上の場合は、スリーブや中継端子などで電線を1本にまとめてから差し込んでください。

■ 差し込み端子への電線の取り付け・取り外し方

- 電線の被覆を7mmむき、被覆をむいた部分が見えなくなるまで端子の挿入孔に差し込み、引いて抜けないことを確かめます。
- 電線を外すときは、差し込み端子の隣にあるプッシュボタンをマイナスドライバーなどで押しながら、電線を引き抜いてください。

付属シールの使用方法

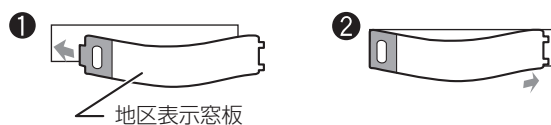
受信機にはシールを付属しています。必要に応じて、該当の箇所にシールを貼ってください(下図は「諸表示」の例)。



地区表示窓板の取り付け・取り外し方法

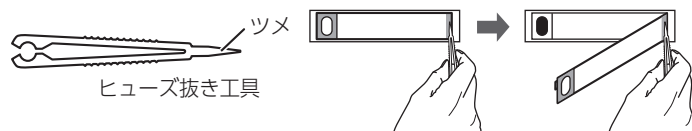
■ 取り付け方

- ① 台紙(厚紙)を地区窓部のくぼみに置きます。
- ② 地区表示窓板の左側を先に差し込み(①)、たわませながら右側にも差し込みます(②)。



■ 取り外し方

付属のヒューズ抜き工具のツメを右端に押し当てると、左端の突起が外れます。



地区窓はリバーシブルになっています。

- ① 火報/防排煙用[表:火報用(白)、裏:防排煙用(黄)]
- ② ガスもれ/諸警報用[表:ガスもれ用(橙)、裏:諸警報用(緑)]

施工・点検支援モードの設定・解除方法

施工・点検を支援するモードです。

■ 施工・点検支援モードの状態

- 以下のスイッチがオン状態になります。
 - ・この機器の音の連続停止（保守音響停止） ・館内のベル音の連続停止（保守地区音響停止） ・一括遮断 ・蓄積、遅延解除 ・火災代表遮断
 - ・非常放送遮断 ・消火栓遮断 ・防排煙遮断 ・オプションスイッチ（遮断設定のみ） ・プリンタ停止
- 以下の異常の検出時間が短くなります。
 - ・感知器無応答 ・感知器断線（終端設定が「終端器」「終端感知器」の場合） ・感知器誤応答 ・出力値異常

■ 施工・点検支援モードの設定および解除方法

使用するスイッチがスイッチカバー内に設けられています。スイッチカバーを開けてください。

- ① 「メニュー（保守）」スイッチを押します。
- ② メニューから「△」「▽」スイッチを押して[8.施工点検モード]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ③ 確認画面で「実行」スイッチを押します。メニューの[8.施工点検モード]のON/OFF表示が「ON」になります。
- ④ 設定時と同様①～③の操作方法で施工・点検支援モードを解除します。各種スイッチ状態はモードに入る前の状態に戻ります。

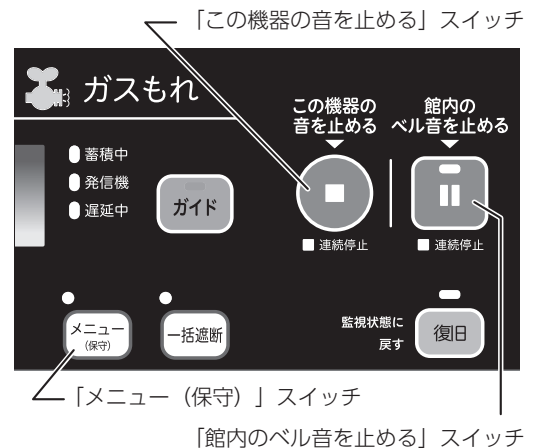


本モード中は「施工・点検支援モード中」を10秒に1回表示します。
12時間無操作で本モードは自動解除されます。

主音響(機器の音)・地区音響(館内のベル音)を個別に連続停止する場合

■ 保守音響停止の設定・解除

- ① 「メニュー（保守）」スイッチを押します。
「メニュー（保守）」スイッチ灯（赤）が10秒間点灯します。
 - ② 「メニュー（保守）」スイッチ灯が点灯中に、「この機器の音を止める」スイッチを2秒間押し続けます。「この機器の音を止める/連続停止」灯（赤）および「スイッチ注意」灯（赤）が点滅し、音響が連続停止に設定されます。
- 《解除方法》設定時と同様①、②（2秒の長押しは不要です）の操作方法で保守音響停止設定を解除します。

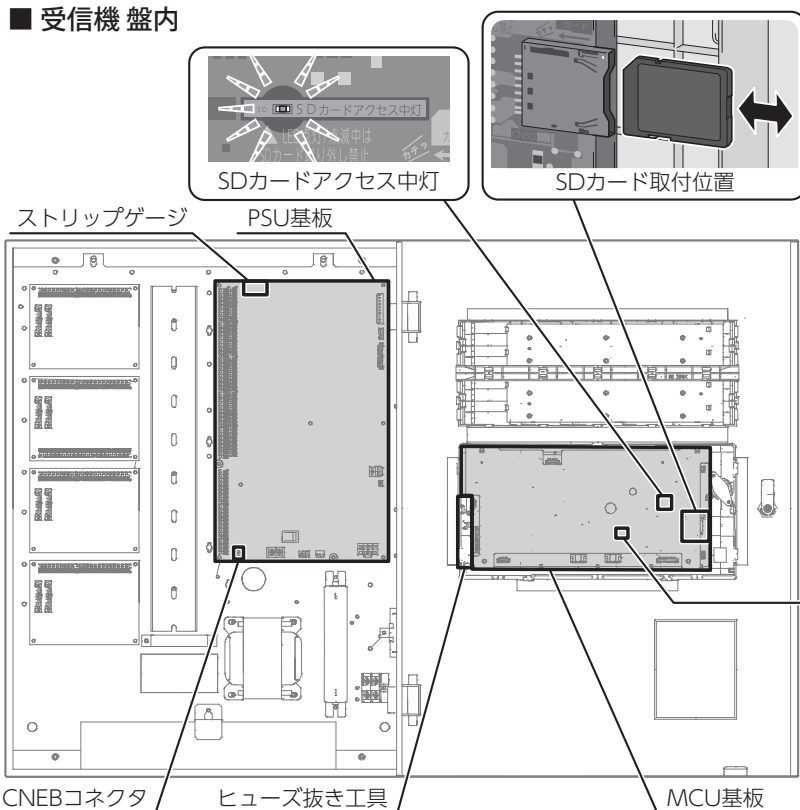


■ 保守地区音響停止の設定・解除

- ① 「メニュー（保守）」スイッチを押します。
「メニュー（保守）」スイッチ灯（赤）が10秒間点灯します。
 - ② 「メニュー（保守）」スイッチ灯が点灯中に、「館内のベル音を止める」スイッチを2秒間押し続けます。「館内のベル音を止める」灯（赤）および「スイッチ注意」灯（赤）が点滅し、地区音響が連続停止に設定されます。このとき、「ブツ」という保守地区音響停止音響が約1分に1回鳴動します。
- 《解除方法》設定時と同様①、②（2秒の長押しは不要です）の操作方法で保守音響停止設定を解除します。

受信機盤内配置およびスイッチによる各種設定

■ 受信機 盤内



本受信機はMCU基板（MCU-106）内のディップスイッチ（DSW1）で、音声および主電源断（停電時）音響の有無を設定できます。仕様を十分理解し、電源をオフにした状態で設定を行ってください。

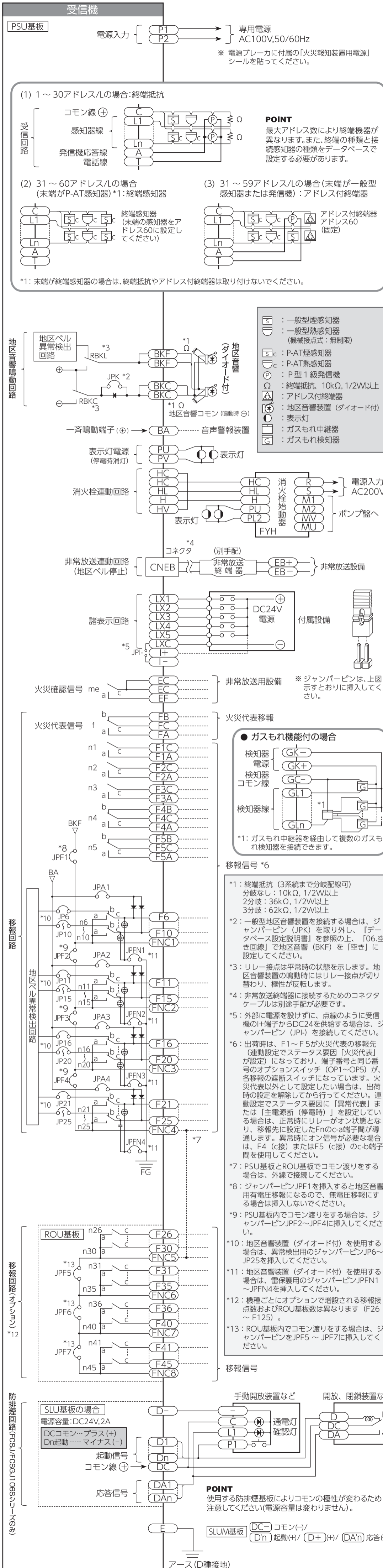
ディップスイッチ【DSW1】 受信機の各種設定

1ビット	ON : 音声なし
	OFF : 音声あり（標準設定）
2～6ビット	: 未使用（OFF固定）
7ビット	ON : 主電源断(停電時) 音響なし
	※ 施工時、メンテナンス時のみ使用可
	OFF : 主電源断(停電時) 音響あり（標準設定）
8ビット	: 未使用（OFF固定）

注意

- 未使用のスイッチは設定を変更しないでください。設定を変更すると、受信機が正常に動作しません。
- SDカードアクセス中灯が点灯/点滅中はSDカードを取り外さないでください。データの破損や故障の原因になります。

接続図



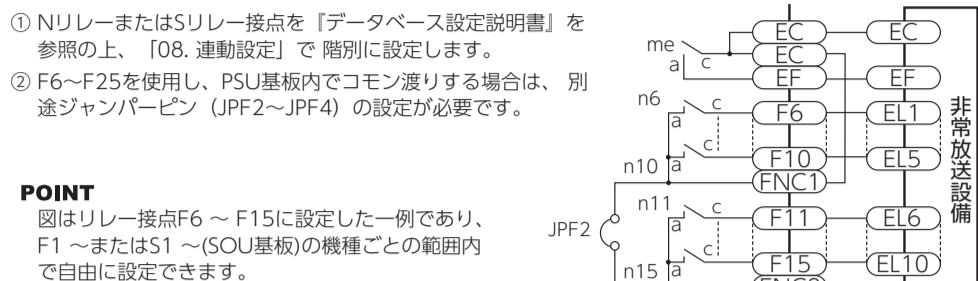
接続条件

- ・地区音響装置 (ダイオード付) 接続容量：10～50L型：DC24V, 450mA (DC24V, 10mA x 45個) 60～100L型：DC24V, 600mA (DC24V, 10mA x 60個)
- ・表示灯 接続容量：AC24V, 840mA (30V, 2Wランプ x 14個, 24V, 21mA LED x 40個, 24V, 15mA LED x 56個)
- ・無電圧接点容量：DC24V, 1A, またはAC24V, 1A
- ・手動開放装置の常時通電灯の電源 電源容量：DC24V, 150mA*1
 - FCSJ/FCSG106S-nL/nLTシリーズの場合：(DC), (D-) からとってください。
 - FCSJ106S-nLMシリーズの場合：(DC), (D+) からとってください。
- ・±電源容量については、「表示機接続台数」の表を参照してください。



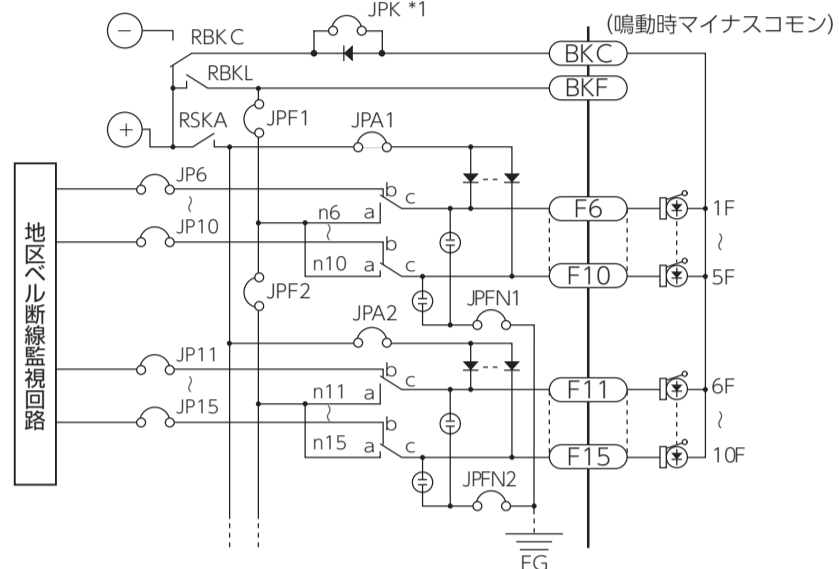
各ジャンパーピンについては、物件の仕様に応じて、正しく設定してください。誤った場合、受信機が正常に動作しません。

非常放送設備の接続



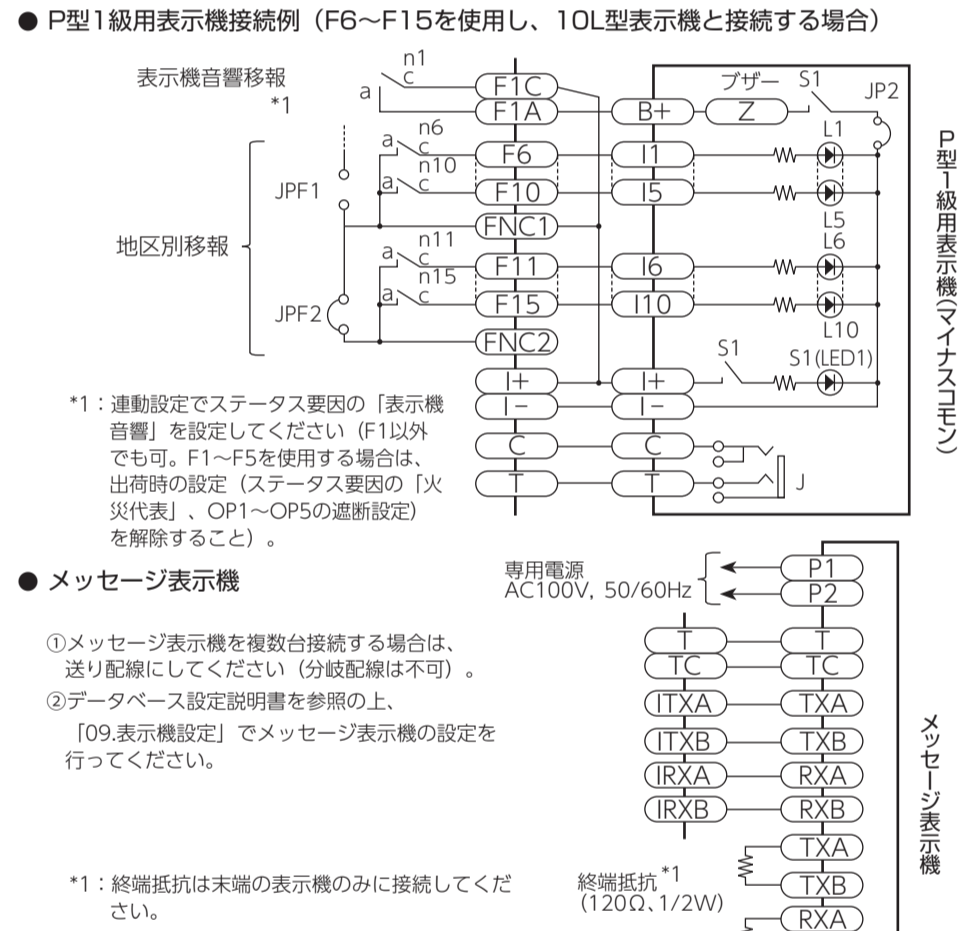
地区音響出火階・直上階鳴動の接続

- Nリレー接点を「データベース設定説明書」を参照の上、「08.連動設定」で出火階・直上階に設定します。
- 出火階・直上階の設定にはPSU基板上のF6～F25の端子を使用します。
- 地区音響装置 (ダイオード付) を使用する場合は、地区音響有電圧移報用のジャンパーピンJPF1～JPF4、地区音響一斉鳴動用のジャンパーピンJPA1～JPA4、雷保護用のジャンパーピンJPFN1～JPFN4、断線監視用のジャンパーピンJP6～JP25を挿入します。一般型地区音響装置を使用する場合は、地区音響有電圧移報用のジャンパーピンJPF1～JPF4、地区音響一斉鳴動用のジャンパーピンJPA1～JPA4のみ接続してください。



- POINT
- ・図はリレー接点F6～F15に設定した一例であり、PSU基板上のF6～F25の範囲内で自由に設定できます。なお、地区音響有電圧移報の場合、前読めで使用してください。F6～F10が無電圧移報で、F11～F15を地区音響有電圧移報のような使い方はできません。
 - ・F1～F5, F26～F125, S1～S100 (SOU基板) は地区音響有電圧出力に対応していません。
 - ※1：一般型地区音響装置を接続する場合は、ジャンパーピン (JPK) を取り外し、「データベース設定説明書」を参照の上、「[06.空き回線]」の「地区音響 (BKF, F, K)」で「PSU基板 (BKC-BKF)」と「PSU基板 (F6-25)」の全接点を「空き」に設定してください。

表示機の接続



表示機接続台数

P型1級用表示機

P型1級用表示機は最大4台まで接続可能です。*1

表示機を5台以上接続する場合は、外部電源 (FYZ011Cなど) を使用してください。回線数により±の電源容量 (表示機以外の用途で使用可能な分) が異なります。なお、本電源は排煙口などの常時通電する機器には使用できません。

*1：FIP103シリーズ表示機の接続台数です。旧機種の場合は弊社までお問い合わせください。

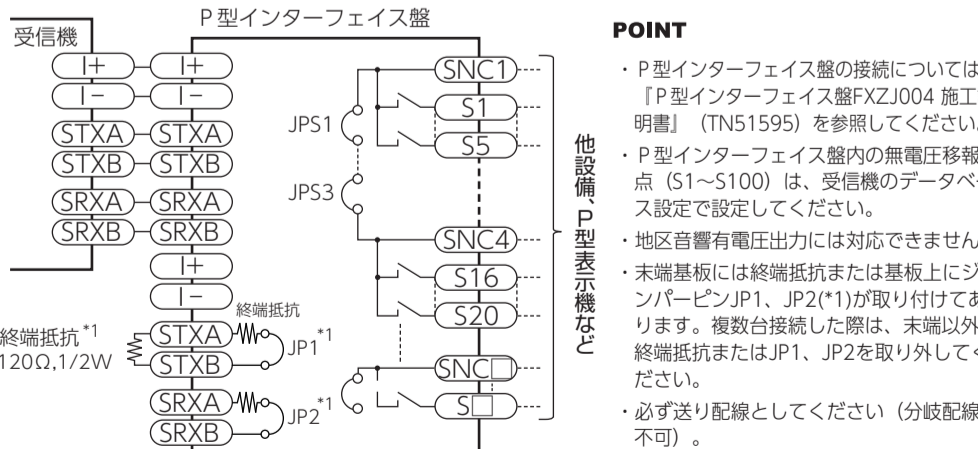
回線数	10	15	20	30	40	50	60	70	80	90	100
FAPJ106Sシリーズ ±電源容量 (mA)	390	370	350	300	160	210	450	-	-	-	-
FCSJ106Sシリーズ ±電源容量 (mA)	450	450	450	400	450	400	340	300	260	225	-

メッセージ表示機

メッセージ表示機は最大31台まで接続可能です。回線数により±電源容量 (表示機以外の用途で使用可能な分) が異なります。

回線数	10	15	20	30	40	50	60	70	80	90	100
FAPJ106Sシリーズ ±電源容量 (mA)	450	450	450	450	270	450	450	-	-	-	-
FCSJ106Sシリーズ ±電源容量 (mA)	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450

P型インターフェイス盤の接続



送受話器袋・マグネットフックの取り扱い

送受話器を受信機内に設置しない機器の場合は、送受話器袋とマグネットフックが付属されています。操作・表示に支障のない位置で受信機の側面や底面に、マグネットフックで吊り下げてください。

絶縁抵抗試験を行うときの取り扱い

- ・地区音響装置 (ダイオード付) を使用しない場合にジャンパーピンJPFN1～JPFN4を接続すると、絶縁抵抗試験時に絶縁抵抗値の不良、他設備への移報、または他設備を破壊するおそれがあります。ジャンパーピンJPFN1～JPFN4は、地区音響装置 (ダイオード付) 使用時以外は接続しないでください。
- ・非常放送設備でコネクタCNEBを接続する場合、非常放送設備の仕様により絶縁抵抗試験で不良となる可能性があります。その場合は、コネクタCNEBを一時的に取りはずして試験を実施するなどの対応を行ってください。

